



特別支援学校PTA連合会

5月20日(月)午後、岐阜県特別支援学校連合会の会議が、当校で開かれました。県下22校(分校含め23校)の特別支援学校の校長先生、副校長先生とPTA会長さんや役員さんが一堂に集まる大きな会議でした。今年度、当校が岐阜県の特別支援学校PTA連合会の事務局ということで、西尾PTA会長さんが、県のPTA連合会の会長さんということになります。

各校の情報交換の中では、PTA、保護者として非常変災時にどのように対応するかといった防災に関すること、PTA役員のみならず手が少なくなってきた中で、PTA組織や役員数を見直していること等が、多くの学校から報告されました。また、逆に会員数が少ない小規模校の多くは、保護者全員がどこかの委員会に所属してみんなで活動している、ということでした。

10月に大垣市で開かれる「教育と福祉振興大会」は、特別支援教育推進連盟(今年度から、原武志前校長が会長)と、県PTA連合会の共催の大きな大会です。PTA会員のみなさんのお力を借りなければなりません。よろしくお願いします。

児童生徒の命を守る

5月28日(火)の川崎市での殺傷事件を受けて、県教委や県警も子どもたちの登下校の安全対策に乗り出しています。

県内のすべての特別支援学校では、登下校時にスクールバスに教員が乗車し、子どもたちの不安の解消に努めています。また、バス内に不審者が侵入して来ないように、「さすまた」や「盾」を購入しバス内に設置する予定です。

5月31日(金)、私は多治見警察署へ行き、生活安全課長にスクールバス経路の巡回をお願いしてきました。「多治見警察署でも子どもたちの通学路の警戒を強化しているところなので、東濃特支のスクールバスのバス停も巡回の経路に入れて見回ります」と言ってくださいました。

信号待ちしている園児の列に自動車が突っ込んだという、予期せぬ悲惨な事故もありました。子どもたちにいつ、どこで、どんな危険が迫ってくるかわかりません。想定できないことも、対応し切れないこともあります。けれども、「子どもの命を守る」ために、できるところからやっていかなければならないと考えています。

